

授業科目	薬物治療設計学演習 Practice on Pharmacotherapy			担当教員	仮屋 蘭 博子、岸原 健二、山口 拓、大磯 茂、宇都 拓洋、西奥 剛、藤木 司、縄田 陽子		
展開方法	演習	単位数	2 単位	開講年次・時期	1・3 年／後期	必修・選択	選択
授 業 の ね ら い							
1) 薬物相互作用の根拠と回避方法について説明できる。 2) セルフメディケーションの適切な実施方法について説明できる。 3) 臨床検査値や理学所見などから患者の問題点を判断し、解決策を提案できる。 4) PK/PD 理論を理解し、抗菌薬の適正な投与設計を立案できる。 5) 治療薬物モニタリング (TDM) の必要な医薬品について、血中濃度の測定法の提案、解析及び処方設計をすることができる。							
観点	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標				評価手段・方法		評価比率
関心・意欲 ・態度	薬物治療設計に関連する論文を検索・吟味し、その問題点を適切に指摘できる。				授業態度・授業への取組		10%
思考・判断	セルフメディケーションの適切な実施方法について説明できる。				レポート		30%
技能・表現	薬物治療設計に関連する論文を読み、自らの意見を発表できる。				口頭発表・討論		30%
知識・理解	薬物相互作用、臨床検査値、PK/PD 理論等を理解し、適切な処方設計を立案できる。				レポート		30%
出 席							受験要件
合 計							100%
評価基準および評価手段・方法の補足説明							
授業態度・授業への取組：10%（関心・意欲・態度）、2 種類のレポート：60%（思考・判断と知識・理解）および口頭発表・討論：30%（技能・表現）で総合的に評価する。							
授 業 の 概 要							
薬物療法が有効かつ安全に行われるためには、医薬品の適正使用及びセーフティマネジメントの実践が不可欠であり、薬剤師が個々の患者における薬物治療の効果を科学的根拠に基づいて予測、評価し、薬物治療継続の可否を判断できることが重要である。本演習では、有効かつ安全な薬物治療の提案に必要な、薬物相互作用とその回避方法について、セルフメディケーションにおいて重要な事項とその科学的根拠について、さらに、臨床検査値等の臨床データや患者情報に基づいた薬物治療の評価及びそのための薬物体内動態評価方法について学ぶ。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：なし 参考書：必要に応じ、資料を配布する。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
授業に関連する英語並びに日本語の文献を読む習慣をつけること。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	薬物相互作用およびその実例について。	代表的な薬物相互作用に関する論文を読み、内容について討議する。(西奥)	予習：薬物相互作用に関するキーワードを確認しておく。 復習：当該授業内容の復習・整理
2	薬物相互作用の回避について。	薬物相互作用の回避方法に関する論文を読み、内容について討議する。(縄田)	予習：薬物相互作用に関するキーワードを確認しておく。 復習：当該授業内容の復習・整理
3	セルフメディケーションについて。	セルフメディケーションに関する知識を確認、整理する。(宇都)	予習：セルフメディケーションに関する基礎知識を確認しておく。 復習：当該授業内容の復習・整理
4	セルフメディケーションの必要性について。	セルフメディケーションに関する代表的論文を読み、内容について討議する。(宇都)	予習：セルフメディケーションに関するキーワードを確認しておく。 復習：当該授業内容の復習・整理
5	セルフメディケーションの適切な実施方法について。	セルフメディケーションに関する論文を読み、実施方法について討議する。(宇都)	予習：セルフメディケーションに関するキーワードを確認しておく。 復習：当該授業内容の復習・整理
6	臨床検査値、理学所見について。	臨床検査値、理学所見に関する知識を確認、整理する。(岸原・藤木)	予習：臨床検査値、理学所見に関する基礎知識を確認しておく。 復習：当該授業内容の復習・整理
7	臨床検査値、理学所見などから患者の臨床状態の推察について。	臨床検査値、理学所見などから患者の臨床状態を考察し、討議する。(岸原・藤木)	予習：臨床検査値、理学所見などから推測できる基本的臨床状態を確認しておく。 復習：当該授業内容の復習・整理
8	臨床状態の改善方法について。	臨床検査値、理学所見などから推察した患者の問題点を判断し、解決策を討議する。(岸原・藤木)	予習：臨床検査値、理学所見などから推測できる基本的臨床状態を確認しておく。 復習：当該授業内容の復習・整理
9	薬物動態学および治療薬物モニタリング (TDM) について。	医薬品の体内動態および薬物モニタリング (TDM) の意義を理解し、最適の薬物血中濃度測定法および医薬品投与プランについて討議する。(大磯)	予 習：治療薬物モニタリング (TDM) の基礎的知識を確認しておく。 復習：当該授業内容の復習・整理
10	PK/PD 理論について。	PK/PD 理論に関する知識を確認、整理する。(仮屋 蘭・大磯)	予習：PK/PD 理論に関する基礎知識を確認しておく。 復習：当該授業内容の復習・整理
11	PK/PD 理論を応用した抗菌薬の処方事例について。	代表的な抗菌薬の PK/PD 理論に関する論文を読み、内容について討議する。(仮屋 蘭・大磯)	予習：抗菌薬の PK/PD 理論に関するキーワードを確認しておく。 復習：当該授業内容の復習・整理
12	抗菌薬の投与設計について。	PK/PD 理論を理解し、抗菌薬の適正な投与設計について討議する。(仮屋 蘭・大磯)	予習：抗菌薬の PK/PD 理論に関するキーワードを確認しておく。 復習：当該授業内容の復習・整理
13	薬物治療設計について。	臨床データや患者情報に基づいた薬物治療設計について討議する。(山口)	予習：臨床検査値、理学所見などから患者に必要な治療薬について確認しておく。 復習：当該授業内容の復習・整理
14	処方せん解析および処方提案についての発表会	薬物相互作用、臨床検査値、理学所見などから患者の問題点を判断し、解決策を提案する。(全員)	予習：臨床検査値、理学所見などから患者に必要な治療薬について確認しておく。
15	処方せん解析および処方提案についての発表会	薬物相互作用、臨床検査値、理学所見などから患者の問題点を判断し、解決策を提案する。(全員)	予習：臨床検査値、理学所見などから患者に必要な治療薬について確認しておく。